



分娩育児部における感染対策

分娩育児部 田中 春美

TITLE

分娩育児部では以下にあげる部署の特殊性を念頭に従来から感染対策に取り組んできました。

- 1) 分娩では血液や羊水など、常に体液の曝露がある。
- 2) 易感染の新生児が入院している。

特に新生児は栄養・清潔・排泄・睡眠・移動など全ての日常生活動作に援助が必要であるため、母親や医療従事者の手を介した感染を防ぐことが求められます。今回は「手を洗うこと」に焦点をあてて、分娩育児部での感染対策の一部を紹介します。

分娩育児部には業務担当副師長とリンクナースを中心とした部署内の感染担当委員が4名おり、助産師に対しては新人が配属される時期に1回と年度の途中にもう1回、全助産師を対象に手洗いの講習を行い、講習後はグリッターバッグによる確認と手洗いの抜き打ちチェックを行っています。さらに手洗いに関するアンケートを年1回実施し、手洗いに対する意識付けを行っています。産科医や小児科医に対しては交替するたびに、手洗いの講習とグリッターバッグによる確認を行っています。

重症未熟児室には小児科医や産科医以外に、小児外科、眼科、脳外科、耳鼻咽喉科、形成外科、口腔外科などの医師が診察のために入室しますし、病撮時は放射線技師も入室します。さらに保育器に収容されているお子さんに面会に来られるご両親も入室されます。医学科および保健学科の実習生達も入室します。このように様々な目的を持った人々が、易感染性の重症未熟児が治療を受けているところに入室しますので、正しい方法で手洗いをしていただくための工夫をしています。

手洗い場には「①外用の診察衣は脱いで下さい。」
「②手を洗う前に腕時計をはずして下さい。」「③

袖をまくって手を洗って下さい。」と表示しています。(写真1) 手を洗っている人が「何秒間手洗いをしているのか」わかるように、手洗い場に時計を置いています。



(写真1)

これらの工夫は前述の感染担当委員が行っています。感染担当委員は毎月最低1回はミーティングを行い、感染対策に関する現状を把握・



分析し、“どうしたらよいか”を考え対応しています。手洗い場の表示や時計の設置もその一環で、「どうしたら、いろんな人にちゃんと手を洗ってもらえるだろうか?」という現状を前提に行った工夫です。分娩育児部のスタッフが『腕時計を外して下さい。』と声を掛けるかもしれません。その時はご協力をお願いいたします。

また2003年10月1日から分娩育児部では母児同室を行っています。母親のベッドの横に新生児のベッド(コットといいます)があり、お母さま方はいつでも我が子を抱いたり、授乳ができる環境になりました。助産師はお母さま方と赤ちゃんを同時に観察したり、ケアを提供しています。従ってお母さま方がオムツ交換や授乳のたびに手を洗うことができ、訪室する医師や助産師もケアをするたびに手洗いができるように4人部屋の洗面台周囲を工夫しました。

(写真2)

どこの病棟も同じだと思いますが、4人部屋の洗面台は窓側に設置されており、石鹸やペーパータオルなど手洗いに必要な物品を置けるスペースがありませんし、壁面利用もできません。そこで一般家庭にある洗濯機用のラックを設置し、手洗いや母児同室に必要な物品を置けるようにしました。ラックの棚に必要な物品を置き、ペーパータオルを清潔に取り出せるよう、手袋の空箱を色紙でデコレーションし、ラックの棚に下向きに置きました。これで濡れた手でペーパーを下向きに引出せるようになりました。(写真3)



(写真2)



(写真3)

洗面台の扉を外して、使用後のペーパータオルを入れるゴミ箱を置くスペースを作りました。(写真4) 小さいゴミ箱しか置けません、こまめに回収してペーパータオルが溢れないように、各勤務帯で気をつけています。ベッドサイドのゴミ箱はペダル式の蓋付きとし、赤ちゃんのお尻を拭いたウェットティッシュを入れていただくよう



(写真4)

にしました。コットの下は使用前のきれいなオムツと使用後のオムツを分けて収納できるようにしています。汚物が入るものは解放にしない、という院内感染対策を基本にしました。母児同室を担当する委員を中心に、これらの工夫を行いました。

今回紹介しました重症未熟児室の手洗い場の表示や、4人部屋の洗面台周囲の工夫は、院内の他の部署でも取り入れ易いのではないのでしょうか。私達に与えられた予算や物・時間は限られていますが、発想には制限がありませんので、既存の施設を生かした工夫が、まだまだ可能かもしれません。

分娩育児部での感染対策は標準予防策の徹底が不可欠で、なかでも手洗いは最も重要です。自部署の特殊性をふまえ、どうすれば手洗い実施につながるかを考え、教育を行うだけでなく環境改善に取り組まれていることはすばらしいことだと思います。環境は限られていますが、このような工夫は他の部署でも応用できると思いますので参考にしてください。また、今後も様々な部署の感染対策を紹介していきたいと思います。<感染制御部>